

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和7年度 富山視覚総合支援学校アクションプラン — 1 —	
重点項目	学習活動 (中学部・高等部普通科)
重点課題	自立と社会参加を目指し、個のニーズに配慮した生徒理解・授業づくりのための支援の工夫
現 状	視覚障害のある生徒は見え方に配慮した環境で学習活動を行っているため、自分から環境を整えるなど、工夫して生活しようとする姿があまり見られない。病弱生徒は、学習空白の長い生徒が多く、知識を得たい意欲をもっているが、対人関係や体力、体調管理の不安から安定して登校することが難しく、個々の生徒の抱える困難さは、多様である。 また、多くの生徒は、自分の困難さを自覚できていなかったり、表現できなかつたりする。教員が複数の目で生徒の行動を観察し、情報を分析して課題を明らかにし、生徒の自己理解を促し主体性につながるよう、より適切で継続した学習活動への支援が必要である。
達成目標	1 現状や指導方法について情報共有するためのケース会議の実施 (月1回以上) 2 ケース会議によって授業改善につなげ、それによって生徒の変容につながったと答える教員の割合 (7割以上)
方 策	1ア 校内の人材を活用した構成メンバーの工夫 (特別支援教育コーディネーターや事象に詳しい校内教諭の参加) イ 課題と改善点の焦点化 ウ ホワイトボードに記録し、見える化するなど、記録の取り方の工夫 2ア 課題解決に向けて、役割分担をしながらチームでの支援や指導の実践 イ 授業の改善や生徒の変容につながったかを振り返るための教員向けアンケートの実施

令和7年度 富山視覚総合支援学校アクションプラン — 2 —	
重点項目	学校生活 (生徒指導)
重点課題	いじめ防止対策及び教育相談等の充実
現 状	本校は、日頃からの担任、学部教員の観察・見守り、保護者との連携、学校生活に関するアンケート等から、いじめ (重大事態) はないが、休み時間の言動やSNS上で誤解の生じるようなやり取りは少なからずあり、生徒の特性によっては、いじめにつながるような場合もあると考えられる。ささいな兆候を個人で判断せずに、複数の教員での早期対応に努めているが、生徒によっては不安や悩みを相談できていない可能性や、一人で抱え込んだりしている可能性等の懸念があり、これまで以上に小さなSOSを見逃さないために、対策の充実が必要である。
達成目標	1 児童生徒・保護者向けの相談案内チラシの作成、案内・配布、アンケート実施、見直し 2 教育相談 (特別講師活用事業等含む) の充実、学部会等でのケース検討及び情報共有 (月1回以上) 3 いじめ防止対策等に関する研修会、校内体制の点検等の実施 (年間1回以上)
方 策	1ア 児童生徒・保護者向けの相談用のチラシを作成し、案内・配布 (1学期) イ 保護者・児童生徒へアンケートの実施、集計報告、見直し (2、3学期) ウ 相談件数の報告・提示 (3学期) 2ア 外部臨床心理士との教育相談日程の案内・配布 (1学期) イ 校内相談体制の流れを明確にしたもの (フローチャート式) を作成 (1学期) ウ 学部会や職員会議で、外部臨床心理士との面談内容を情報共有 (毎月) 3ア 教員へのいじめ防止対策に関する研修会の実施 イ 生徒へのいじめ防止やネットトラブル防止等の啓発活動 (講習会) ウ いじめの重大事態の調査に関するガイドラインチェックリスト (学校における平時からの備え) を用いた点検の実施、不十分な観点の見直しを検討

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)